

# 衣浦港3号地 <旭硝子(株)地先の海域> 産業廃棄物による埋立問題

## 環境への影響に不安の声

### 6月2日 県環境部が町議会全員協議会で説明 富貴地区3区・大足区にも説明

6月2日午後2時から開かれた武豊町議会全員協議会で、県環境部から、初めて衣浦港3号地を産業廃棄物と一般廃棄物で埋め立てる計画について説明がありました。

説明によれば、埋立面積 約47ha、埋立容量 約500万m<sup>3</sup>、跡地利用計画 工業用地（一部都市再開発用地）スケジュール 環境アセス手続き 平成17年～19年 建設工事 平成19年～21年 供用開始

平成22年、事業主体 第三セクター方式を検討しています。

衣浦港3号地の埋立問題は、すでに平成10年3月議会で、県からの意見が求められており、「異議なし」と議決（日本共産党議員団のみ反対）している経緯があります。その時の計画は、埋立面積・埋立容量等は今回の計画と同じですが、埋立に使う物が、衣浦港航路の浚渫土、建設残土が主体で、環境への影響はないと説明されてきました。



産業廃棄物による埋立が計画されている衣浦港3号地（旭硝子(株)東側海域）。日曜日には、多くの釣り人が海釣りを楽しんでいます。（6月19日）

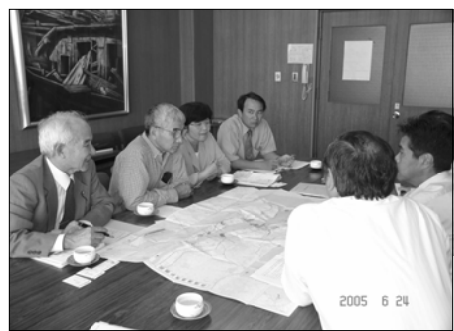
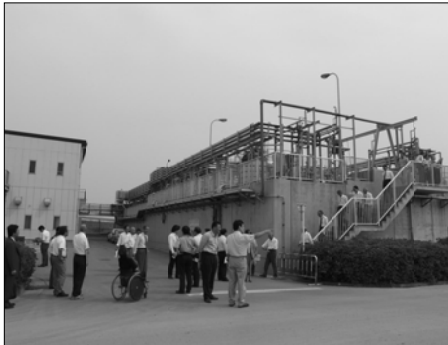
今回、これを産業廃棄物と一般廃棄物に切り替えるとして、計画を変更し、地元との理解と協力を求めたものです。

### 全協としては異例、議員からの質疑続出

全員協議会（全協）は、町（または県など）から行政上の課題などについて説明するもので、議員から質疑は、「議案の事前審議になるもので質疑は適当ではない」とされ、特別な場合を除いて、議員からの質疑は行われないのが通例です。しかし、今回の3号地埋立問題は、住民の生活環境にも直接関わる重要な問題



町議会として視察したASEC（左・知多市）と衣浦P1の排水処理施設（右・碧南市）（6月14日）



衣浦港港湾計画について説明を受ける議員団（6月24日、港務所にて）

だとして、議員から次々と質問が出されました。

- ◎3号地がダメになったら、美浜地先の計画予定地に移るのか。
- ◎産業廃棄物（産廃）・一般廃棄物（一廃）の比率50対50は変わらないのか。
- ◎航路の浚渫土は、今後、どうなるのか。
- ◎臨海道路の南進など道路問題はどうか。
- ◎埋立完了後の土地利用はどうか。
- ◎堤防の遮水性はどうか。等々・・・

### 手持ちの資料を全て公開するのが先決

質疑が続く中で、梶田稔議員は、「県当局の対応は、本末転倒しているのではなか。質問を受けるから答えるといういまの姿勢は、正しくない。県は、住民がどのようなことに関心を持っているかは、分かっているはずだから、まず手持ちの資料を包み隠さず全て公開することが、地元の理解と協力を得る大前提ではないか。生活道路を使わない搬入

ルートを考えているのか、そんなことが本当に可能なのか。どうすれば可能となるのか。搬入には、相当量の大型トラックが必要だが、その予測台数はどうか。聞かれなくても説明すべき問題は、まだまだたくさんあるのではないか。」と、県の姿勢を厳しく批判しました。

10トントラック換算で1日400台～600台

梶田稔議員の指摘に対して、県は「10トントラックに換算して、1日400台から600台（往復）の通行となる。生活道路を通らない搬入道路としては、臨海道路の南進と旭硝子(株)敷地を買収して、3号地への搬入路を設けるなど、県建設部と協議したい。」と答えました。

◇ ◇ ◇  
6月2日、富貴地区3区と大足区への説明会は、区長・副区長のみなさんが出席し、アクセスやにおい、搬入車両からゴミや粉塵などの飛散はないかなどの質問が出されました。

また、6月17日に行われた臨時区長会でも説明があり、6月30日に、区長会として知多市のアセックを視察することになりました。6月24日には、衣浦港務所にて、衣浦港港湾計画と3号地の位置づけなどについて説明を受けました。

(写真上)